

サロメ

一八九六

サロメは黄金の皿に

洗礼者ヨハネの首をのせて

かがみ考えおるソフィストにもたらず。

愛に無関心なるソフィストに。

「サロメよ」と若きソフィストは答う。

「われは汝のことうべを望みしが」

と戯れに言うに、

翌朝 サロメの侍女 足早に来たる。

ソフィストの愛人の亜麻色髪のことうべを

黄金の皿に載せて持ち来たる。

されど思索中のソフィスト

昨日の望みを忘却し果ておれり。

血の滴りおつるを汚らしく思いて

彼はこの血塗れの物を

目の前より持ち去れと命じ

プラトンの対話篇を読み続ける。

サロメちゃん♡

祝宴での舞踏の褒美として
「好きなものを求めよ」と言われ、母ヘロディアの
命により「洗礼者ヨハネの斬首」を求めた。
戯曲ではサロメの一方的なヨハネへの
恋心によるものである。
そういうとこ好きなよ……



生首! 見せろやないよ!



ノブ



聖ヨハネ



サロメ

サロメ

サロメ



考察

- ・ソフィストに愛に関心を示してはいた。
- ・ソフィストに対する愛の行を過ぎて愛への関心。
- ・激悟型

詩

- ・亜麻色の髪
- ・ヨハネの首を捧ぐ
- ・ソフィストの愛人
- ・侍女がいる

聖書

- ・ユダヤ王ヘロデ
- ・ヘロディヤスの娘
- ・踊りが上手
- ・ヨハネの首を望む
- ・母の言いなり

戯曲

- ・処女である
- ・自分を受け入れないヨハネの怒り
- ・プライドの高さ
- ・ヨハネへの執着
- ・特権階級の奢り
- ・愛憎の戸惑い

設定

- ・つり目・猫目気味
- ・眉手薄、前髪長。→ 系統読みとりにくい



考察

- ・サロメと対峙する
- ・愛への関心が皆無
- ・知識が全て
- ・サロメに関心が無い

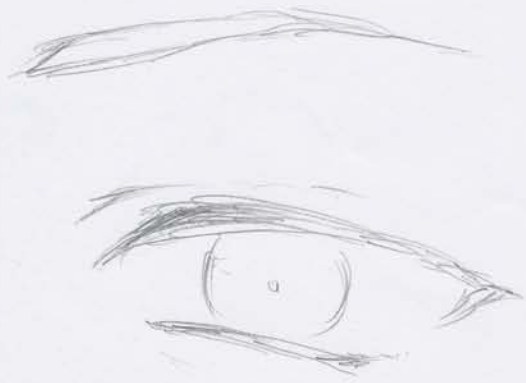
詩

- ・若い
- ・愛に無関心
- ・プラトンの対話篇を
読んでいた
- ・サロメの愛人
- ・サロメとの会話は
たまたまにすぎない
- ・どうでもいいにせよ
大に忘れろ

史実

- ・金銭と引き換えに
徳を教える
- ・弁論家
- ・悪名として用いられ
ることが多い

設定



- ・切れ長・下衣目
- ・眉手太め・ツリ眉

